

このたびはiChargerのお買い上げありがとうございます。  
この商品は出荷前に基本動作確認してマーキング+販売店シールを施しております。  
販売店シールが剥がされた充電器は当店での保証が受けられません。  
これまでに判明している故障事例を記載していますので、ご一読下さい。

## 使用上の注意

200W以上のパワーで充電する場合は、バッテリー電圧よりも高い電圧の親電源を使用して下さい。  
親電源よりも電圧の高いバッテリーを充電して充電器の昇圧回路を酷使すると、充電器寿命を著しく縮めます。

**電圧測定精度を高めるために、逆接防止回路がありません。**  
**電源やバッテリーの+、-を逆接すると、瞬時に充電器が壊れますので十分にご注意下さい。**

製造・運搬保護用フィルムが張られたままの状態の販売しております。  
フィルム上の細かい擦り傷が気になる場合は、フィルムを剥がしてお使い下さい。  
また、別売りのガラスフィルムが使われる場合は製造・運搬保護用フィルムを剥がした状態でお使い下さい。  
製造・運搬保護用フィルムの上からガラスフィルムを貼り付けると、半透明状態となってしまいます。

## ★要注意★

ネット上の誤情報で充電器を壊される方が増えています。  
誤った設定で充放電して壊れた物は自然故障ではないため、初期不良対応の対象とはなりません。  
最近特に外部抵抗の誤った使い方によって壊される方が増えています。  
外部抵抗は放電したい電流に合わせて抵抗器を正しく選択する必要があります。  
電流を変える場合は、抵抗器を変更する必要があります。  
抵抗器の抵抗値/定格電力の選び方(計算方法)は英文説明書に記載されている通りです。  
抵抗値の計算  $R=V/I$  抵抗値 $\Omega$ =電圧 $V$ ÷電流 $A$   
定格電力の計算  $P=V \times I$  定格電力 $W$ =電圧 $V$  x 電流 $A$

(例) 満充電で8.4Vの2セルLIP0バッテリーを外部抵抗を使用して放電電流40A設定で放電したい場合は、  
電流が40Aになる抵抗値 $0.21\Omega$  ( $8.4 \div 40$ ) で定格電力336W以上 ( $8.4 \times 40$ ) の抵抗器をご選択下さい。

**注意:** iCharger充電器は15Aヒューズを並列で複数個搭載して大電流に対応しています。  
40Aの抵抗器で40A設定で放電する場合は、最小ヒューズ容量15Aを超えないように充電器の制御で  
徐々に電流を上げるため問題ないのですが、40A流せる抵抗器を使用した状態で  
放電電流設定を5Aや10Aにして放電すると充電器の制御外の電流が発生してヒューズが切れます。  
ヒューズの抵抗値にはバラツキがあるため、充電器の制御外の要因で15A以上の電流が流れてしまうと  
抵抗値の一番小さいヒューズが切れてしまいます。  
ごく稀にヒューズの抵抗値が揃っていて5Aや10Aでも使えてしまう方もいるようですが、  
誤った使い方を広めるのはやめて下さい。  
たまたま揃っていても、使用を重ねてヒューズが劣化すると抵抗値がバラツキはじめて切れます。

## ★電源及びバッテリーと充電器の接続方法

説明書記載の接続手順を守らないとチップにスパークダメージが蓄積されます。

- ①安定化電源または親バッテリーに充電器を接続します。  
安定化電源を使用する場合は、安定化電源に充電器を接続した後に電源を入れて下さい。  
バッテリー電源を使用する場合は、アンチスパークコネクタを使用して下さい。
- ②充電器とバッテリーの接続は、必ずバランスケーブルを先に接続して、次にOUTPUTを接続して下さい。  
12V以上のバッテリーと接続する場合は充放電OUTPUT側にアンチスパークコネクタを使用して下さい。
- ③充電器とバッテリーの取り外しは、必ず充放電OUTPUTを先に外して、次にバランスケーブルを外して下さい。

★バッテリーを接続していないのに3~5V表示でコネクト状態(Connection OK表示)と  
なっている場合は、充放電OUTPUTポートのチップが壊れているので修理が必要になります。

★バランスポートの合計電圧と充放電OUTPUTポートの電圧に誤差が発生した場合は、  
キャリブレーション機能でテスターを使って正確な電圧に調整して下さい。  
調整できないほど狂っている場合は修理が必要となります。

## ●全機種共通故障事例

- 事例 1** 親電源の設定は正しく選択して下さい。  
親電源を安定化電源=DC Power Supplyに設定すれば、充電器本体内部での放熱放電となります。  
親電源をバッテリー=Battery Power Sourceにした状態で安定化電源を使うと、  
放電時に充放電OUTPUTポートのチップが壊れます。  
親電源をバッテリー設定にしたまま放電をされた場合は電源側に逆充電する事になり、  
バッテリーから親電源に向けて電流が流れる様に充電器内で昇圧制御されるのですが、  
安定化電源側は逆充電を受ける事ができないため、正常に電流が流ず昇圧回路が発熱して壊れます。
- ★お知らせ★**  
ファームウェアのバージョンにより、親電源設定表示が異なる場合があります。  
DC Power Supply や Battery Power Source の表記がなく、Regenerative enable 表記だけの場合は  
Regenerative enable=逆充電放電機能の設定により放電時の動作が選択できます。
- Regenerative enableのチェックなし = DC Power Supply (安定化電源)  
Regenerative enableのチェックあり = Battery Power Source (バッテリー)
- 事例 2** 安定化電源使用中に、Regenerative mode=逆充電放電機能をONにした状態で放電をしないで下さい。  
安定化電源側は逆充電を受ける事ができないため、正常に電流が流ず昇圧回路が発熱して壊れます。
- 事例 3** 充電器の電源が入っていない状態でバッテリーを接続しないで下さい。  
突然の停電も要注意です。  
電源が入っていない状態では充放電ポート制御が機能していません。  
この状態でバッテリーを接続すると充放電OUTPUTポートのチップが壊れます。  
※安定化電源を使用されている方は、バックアップ電池などをご使用下さい。
- 事例 4** 充電器にバッテリーの出力コネクタを+、-逆接続すると充放電OUTPUTポートのチップが壊れます。  
充電器にバッテリーのバランスコネクタを+、-逆接続するとバランスポートのチップが壊れます。
- 事例 5** 充放電OUTPUTポートのコネクタをショートや外部短絡させないで下さい。  
特にカー用バッテリーに多い、端子剥き出しのT型やバナナプラグを使用されていて、  
バッテリー取り外し直後でまだ残留電圧が残っている状態で端子がショートしたり、  
電源本体やケース、電源を共通している機器やそのケース等と外部短絡すると  
充放電OUTPUTポートのチップが壊れます。  
※カー用バッテリーに接続しない時は充電用T型やバナナプラグの+、-、バランス用  
バナナコネクタに必ず絶縁カバーを取り付けて下さい。
- 事例 6** 大電流放電をするために追加したエクストラ放電用機器や抵抗が  
充電器の限界を超えた電流を発生させた場合は、  
ヒューズ切断が間に合わず充放電OUTPUTポートのチップが壊れます。
- 事例 7** 充電器の対応電圧を超える電源を接続しないで下さい。  
充電器の対応セル数を超える電池を接続しないで下さい。  
最悪の場合は焼損して基板が融解します。基板が溶けた焼損は修理不能となります。
- 事例 8** ★Extra dischargeでの放電時に外部抵抗器の電流値よりも低い放電電流を設定・実行すると壊れます。  
実行できずにエラー表示となったら修理が必要です。  
外部抵抗を使用する放電モードは充電器内部だけでは放電できない電流を補助するための機能です。  
放電電流を抑制制御する機能はありません。  
例えば、30Aの外部抵抗器を使用する場合は放電電流は30Aに設定して下さい。  
30A外部抵抗器を使った状態で充電器の放電設定を5Aや20Aで設定・実行した場合は、  
30A抵抗器だけで瞬時に30A流れてしまい充電器が制御できない状態で壊れます。  
外部抵抗器で10A放電したい場合は、10Aの抵抗器を用意して下さい。  
外部抵抗器で20A放電したい場合は、20Aの抵抗器を用意して下さい。

## ●DX6、DX8、456DU0、458DU0、308DU0、406DU0、4010DU0の故障事例

事例1 非同期モードと同期モードはそれぞれ設定と配線を変える必要がありますが、設定や配線が正しくされていない状態で使用した場合は充電器が壊れます。最悪の場合は焼損して基板が融解します。基板が溶けた焼損は修理不能となります。

事例2 Extra dischargeやChannel Regenerative Modeでの放電時に外部抵抗器の電流値よりも低い放電電流を設定・実行すると壊れます。実行できずにエラー表示となったら修理が必要です。外部抵抗を使用する放電モードは充電器内部だけでは放電できない電流を補助するための機能です。放電電流を抑制制御する機能はありません。例えば、30Aの外部抵抗器を使用する場合は放電電流は30Aに設定して下さい。30A外部抵抗器を使った状態で充電器の放電設定を5Aや20Aで設定・実行した場合は、30A抵抗器だけで30A流れてしまい充電器が制御できない状態で壊れます。10Aで放電したい場合は、10Aの抵抗器を用意して下さい。20Aで放電したい場合は、20Aの抵抗器を用意して下さい。

## ★保証や修理のご依頼について★

新型コロナの影響によりEMS等の国際送料が変動しております。

最新情報は特約店ホームページのサポートにてご確認ください。

<https://hobby.co.jp/retail/392.html>

### 初期不良対応

- ・初期不良交換対応は商品到着後2日間です。
- ・動作確認日マーキングがない物、消された物は初期不良対応はできません。
- ・販売店シールが剥がされた跡のある物は、分解品として初期不良対応はできません。
- ・お客様側での接続ミスなどによる破損が確認された場合は、有償修理対応となります。

### メーカー保証

- ・メーカー保証は購入日から1年間です。※中国までの往復送料はお客様負担となります。
- ・メーカー保証は自然に故障した場合のみメーカースタッフの検証後の無料修理対応となります。メーカーでは故障状況、故障内容、充電器に記録された使用ログを参考に検証します。
- ・全品動作確認後、動作チェック日マーキングおよびその上に販売店シールを貼っております。

人為的なミスにより発生した故障については有料修理扱いとなります。

### 人為的なミスの例

- ・上記警告内容で充放電ポートのチップが破損している場合。
- ・電源やバッテリーの接続を誤り逆接や短絡等でチップが損傷している場合。

### 修理不能の事例

- ・落下や輪禍などにより基板が破損するほどの衝撃が加わっている場合。
- ・水や燃料などが侵入して破損している場合。
- ・基板が焼けてプリント上のパターンが溶けるほどの焼損を受けている場合。

### 修理について

- ・修理は全て故障パーツを特定しての部品交換での対応となります。
- ・基板交換が必要なほどのダメージを受けている場合は、修理不能となります。

修理依頼先eメール [cs.jp@hobby.co.jp](mailto:cs.jp@hobby.co.jp)

(株)マルタ・ホビー HOBBY.CO.JP GROUP 受注センター

2023.8月改訂版